

令和3年度 後期学校評価アンケート結果のご報告

後期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回もアンケート実施と同時期に、児童と教職員にもアンケートを実施しました。それらの結果を報告させていただきます。

また今回も Microsoft Forms を使い、お手持ちのスマートフォンから QR コードを読み取ってご回答いただきました。それに加え、PTA メール配信も活用しました。それにより回答数が 37 件増加しました。

今後も学校教育へのご協力をよろしくお願いいたします。

1. 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標 学ぼうとする意欲や学びを友だちと共有する力を身につけさせ、学力向上につなげる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 授業は分かりやすいですか。児童 93.5% 保護者 87.4% 教職員 80.0%
- ② 授業中、進んで発表していますか。児童 70.9% 保護者 59.3% 教職員 86.7%
- ③ 学習ノートを見やすく書いていますか。児童 85.3% 保護者 69.9% 教職員 66.6%
- ④ 学習ノートに、「めあて」に沿った「振り返り」を書いていますか。
児童 90.7% 保護者 80.8% 教職員 80.0%
- ⑤ 自分から進んで家庭学習をしていますか。児童 74.8% 保護者 51.0% 教職員 79.5%
- ⑥ 読書の習慣が身についていますか。児童 75.3% 保護者 49.6% 教職員 73.4%

分析（成果と課題）と、それを踏まえた取組の改善

保護者の指数が前回に比べ④については7.0%上がり、⑤については9.0%下がりました。④については、6年間を見通した「ノートの書き方」に沿ったノート作りを徹底して指導していることや、年に一回ノート検定を実施したり、子ども自らがチェックポイントを見て到達度を確認したりする等、授業における学びの足跡が残るノート作りを行っていることが要因ではないかと考えられます。⑤については、本校が年度初めに配布している「自主学習のススメ」の中身をもう一度見直したり、タブレット端末を使っての自主学習を進めたりして、子ども自らが課題を選択し、予習・復習に取り組むことができるようにしていきたいと思えます。

本校のジョイントプログラムの結果も踏まえて

文章を書いたり読み取ったりする問題が課題にありました。書くことについては、「5W1H」や「2段落構成」等、条件をつけた短文作りを、ことばみがきタイム（帯時間）を使って行っていききたいと思います。読むことについては、読書の力をつけるために、あまり読んでいない分類の本を、「味見読書」という形で、幅広いジャンルの本に触れられるようにしていきます。また、来年度も学校司書と担任が連携して授業を行い、「読書ノート」を用いて、図鑑や事典の使い方、統計や出典の書き方のページを使って学習し、百科事典や基礎資料を調べるスキルを身に付けていきます。そのスキルを授業や家庭学習で発揮し、意欲的に学習に取り組む子どもを育てていきます。また、家庭でも、子どもがどんな本を読んでいるのか、学校で取り組んでいる「読書ノート」を見ていただき、保護者との連携を図っていきます。

（裏面もあります）

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 規範意識の育成や道徳教育の充実を図り、支え合い高め合う集団をつくる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 自分からあいさつができていますか。児童 92.0% 保護者 74.5% 教職員 80.0%
- ② 相手を思いやり、親切にすることができますか。
児童 95.7% 保護者 96.0% 教職員 100.0%
- ③ 周りの人から大切にされていますか。児童 94.3% 保護者 99.3% 教職員 100.0%
- ④ ものを大切にしていますか。児童 95.2% 保護者 72.6% 教職員 46.7%
- ⑤ 学校のきまりや社会のルールを守っていますか。
児童 95.2% 保護者 96.4% 教職員 86.7%

分析（成果と課題）

前回と比べ、全体的な傾向はあまり変わりませんでした。ただし依然として「自分からあいさつ」と「ものを大切に」することについては、児童の指数と保護者の指数に大きな開きがあります。自分からあいさつをすることについては、登下校時の様子を見ても、まだこのような高い値を示す実態ではありません。また、ものを大切にすることについても、まだ落し物があり、誰のものか呼びかけても所有者が見つからないことが多々あります。引き続き、自分からあいさつを行い、自分で自分のことができるようにしていきたいと思えます。

分析を踏まえた取組の改善

「自ら進んであいさつのできる児童」を育てていくには、今後も学校・家庭・地域が一体となることが大切であり、人権教育の第一歩につながることを意識して取り組んでいきます。「ものを大切にせる児童」を育てていくためには、ものの記名を呼びかけたり、整理整頓ができる環境を整えたりしていきます。児童会活動においても、主体的・自発的な児童を育て、あいさつの力や規範意識を高めていきたいと思えます。あいさつは、相手を見て聞こえる声で言うことや、知らない人にも言うことで力がつくと具体的に児童に示していきます。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 運動やスポーツの実践と体力の向上、健康的な生活を送る子を育成する。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ① 睡眠時間は8時間以上とれていますか。児童 88.0% 保護者 90.7% 教職員 66.7%
- ② 毎日朝ごはんを食べていますか。児童 96.7% 保護者 97.0% 教職員 100.0%
- ③ 外遊びやスポーツなどで、体を動かしていますか。
児童 87.0% 保護者 70.5% 教職員 100.0%
- ④ テレビを観たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか。
児童 76.8% 保護者 59.6% 教職員 80.0%
- ⑤ 安全に登校できていますか。児童 96.7% 保護者 97.4% 教職員 100.0%
- ⑥ 安全に下校できていますか。児童 97.8% 保護者 95.0% 教職員 66.6%

分析（成果と課題）

③については、保護者の指数が10.7%下がりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の一つとして、外遊びやスポーツを自粛する傾向にあることから、このような指数になったのではないかと考えられます。学校の休み時間は、多くの児童が外遊びを楽しんでいます。

分析を踏まえた取組の改善

⑥の下校については、教職員の指数が登校に比べて33.4%下がっています。道に広がっていたり、走って帰ったりする様子がまだ見られ、地域の方から注意を受けることもあります。一人一人が安全に気をつけて気持ちを落ち着けて下校するよう継続して指導していくとともに、家庭でも声かけをしていただくことが大切です。

